

1 まちづくり構想策定の経緯と目的

本町では、平成２１年から３０年度までの期間「第６次別海町総合計画」に基づくまちづくりを進めており、中でも、別海地区市街地では空き家や空き店舗が目立つとともに、昭和４０年から５０年代に建設された公共用施設が、撤去或いは、施設内外を含む機能を刷新する時期を迎えている。

このような状況の中、本町では老朽化した中央公民館の建て替えを主な目的とした「（仮称）別海町生涯学習センター」建設の検討を進めるとともに、別海地区市街地の課題を整理し、町民の質の高い生活の確保と持続可能な地域社会の実現を目指した「別海町市街地活性化計画（別海地区）」を策定した。

その中で検討を進めてきた別海地区の課題解決や防災対応力の強化に向け、国の補助事業を活用した「矢臼別演習場周辺まちづくり構想（以下、まちづくり構想と表記。）」の策定に取り組むこととしている。

この補助事業は、防衛施設が存在するという地域の特徴を踏まえ、自衛隊員等と住民との文化の交流又は防災等の活動促進を企図したまちづくりを行なう場合に、国がその費用の一部を補助し、防衛施設の存在に対する住民の理解を深めることで、防衛施設とその周辺地域との調和を図ることを目的とした制度となっている。

まちづくり構想は、平成２７年度から平成２９年度の３年間をかけて策定を進め、平成２７年度は、本構想の基本理念や方針を定める「基本構想」を策定する。

2 構想対象エリア

矢臼別演習場に隣接し、町内でも最も多くの商工業者と公共用施設が集積している別海地区について、更なる交流人口の増加を図るとともに、防災施設の充実・強化による防災対応力の強靱化を進めるため、当該地区をまちづくり構想の対象エリアに設定する。

3 まちづくり構想（基本構想）策定の進め方

◆町民参加機会について

基本構想策定にあたり、次のとおり町民参加機会を設け、検討を行った。

題名	対象	回答数
町民アンケート	１８歳以上の町民から 2,500 名を無作為抽出	実施期間：平成 27 年 11 月 20 日～12 月 28 日 回答数　：868 件 回答率　：34.72%
まちづくり構想 住民懇話会	町内の関係団体の代表者 アンケート回答者の町民	全３回の会議を開催し基本構想の作成に対する意見徴収を行った。
まちづくり住民大会	全町民	開催日　：平成 28 年 2 月 13 日 開催場所：中央公民館 参加者数：36 名
パブリックコメント	全町民	実施期間：平成 28 年 2 月 12 日～3 月 14 日 意見者数：１団体２個人 意見数　：１４件

◆その他の検討体制について

役場内の横断的な検討体制として、各部署の代表者で構成する矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会を設置し、全体的な調整や整合性の確保に努め、まちづくり構想を策定した。また、防災に関係する機関や団体等との共通の認識に基づき、今後の本構想の策定が進められるよう、防災関係機関の会議を開催した。

4 構想対象エリアの課題

構想対象エリアである別海地区の課題については、平成２６年度に策定した「別海町市街地活性化計画（別海地区）」において整理した課題を含め、住民懇話会等での検討を行い、次の内容にまとめた。

①拡大する住宅域の位置づけ
・別海地区は、人口の減少が続く本町の中でも唯一の増加傾向にあり、住宅域が拡大しています。今後のまちづくりにおいては、市街地をどのようにコンパクト化していくかが課題となっている。
②市街地のコンパクト化
・高齢化が進み、車社会に対応できない町民や市街地における生活を望む町民が増えていくことが予想されるため、町民が自立した生活を営めるよう、旧別海駅前に隣接した地域や、別海地区市街地でどのように集約化していくかが課題となっている。
③防衛関連施設について
・矢臼別演習場に係る騒音や振動などの障害、安全性の確保が課題となっている。 ・災害時における救助や避難に係る体制の整備が課題となっている。 ・自衛隊員等が持つ能力を生かした交流や学習機会を通じた町民理解と、まちづくりの担い手となれる環境の醸成が課題となっている。
④災害時の避難場所の確保
・大規模災害時の避難場所や他の地域からの２次避難受け入れ、物資の供給拠点の整備等が課題となっている。
⑤消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化
・近隣自治体に建設された大型店舗への消費購買力の域外流出と中小小売業等の衰退が著しく、商店街の活性化が課題となっている。
⑥交流拠点、防災拠点となる施設の整備
・中央公民館の老朽化による建て替えについて、新たな交流拠点、防災機能拡充のため、（仮称）生涯学習センターの整備が求められている。
⑦空き店舗や未利用地の有効活用
・空き店舗や未利用地の増加にどのように対処していくかが課題となっている。 ・旧別海病院跡地や老朽化した公共施設の建て替え計画などに加え、道東あさひ農業協同組合事務所の移転や、Ａコープ店舗の閉鎖に伴う未利用地などをどのように活用していくかが課題となっている。
⑧来街者の増加、回遊性や滞在時間の向上
・案内表示や情報掲示板、パンフレットなど来街者に対するサービスが不足しており、来街者が町内各所に円滑に移動することが困難な状況にある。

まちづくり構想における視点

まちづくり構想の基本理念や方針を検討する上で、密接な関係にある第6次別海町総合計画、別海町地域防災計画、別海町市街地活性化計画（別海地区）、（仮称）生涯学習センター建設基本構想（答申）などの関連計画を踏まえるとともに、住民懇話会やアンケート調査の結果などから、基本構想策定の視点として次のとおり整理しました。

- 第6次別海町総合計画（平成21年4月から平成31年3月）

 - ・ひとが輝くために：子どもがすこやかに育つ環境づくり
 - ・まちが輝くために：別海町の魅力を知ってもらい、来訪者を増加
別海町の産品に触れてもらい、生産者と消費者を結ぶ
 - ・みんなのつながりでつくる地域のために：地域の課題を町民とともに解決
- 別海町地域防災計画（平成26年4月）

防災計画から関連する内容

 - ・災害発生した時の給水、防疫、食料供給等災害応急対策に関すること
 - ・防災思想の普及に関すること
 - ・防災体制の確立
- 別海町市街地活性化計画 別海地区（平成26年11月）

 - ・拡大する住宅域の位置づけ
 - ・市街地のコンパクト化
 - ・消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化
 - ・空き店舗や未利用地の有効活用
 - ・来街者の増加、回遊性や滞在時間の向上
 - ・交流拠点、防災拠点となる施設の整備
 - ・災害時の避難場所の確保
- （仮称）別海町生涯学習センター建設基本構想（平成26年4月答申）

「つどい、ふれあい、つながり、まなびあい～
人づくりまちづくりの交流連携拠点」

 - ・文化ホール、公民館（学習）、共用部（ロビー）、子育て支援、防災機能、図書館機能、社会福祉機能、観光案内機能などの多機能複合化の検討
- 住民懇話会及びアンケート調査の結果

 - ・高齢者を地域で支え、暮らし続けられる地域に
 - ・まちへの愛着心が高まれば外からでも別海を応援
 - ・コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は密接な関係
 - ・子どもから高齢者までが集えるつながりをつくる多世代交流の場が必要
 - ・新たな雇用の場、多様な就業形態の創造
 - ・公民館機能の充実
 - ・地元のものを地元で買える、一次産業を支える地域に
 - ・地元産品に対しての自家消費や食育の視点

基本理念

整理した視点を包括するとともに、目指すべきまちの将来像を表す言葉

～つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり～

町民が安心安全に暮らし続けるために、
多世代がつながり支え合う関係をはぐくむ、多世代・複合交流拠点を創造します。



基本構想の視点	基本方針	具現化する手立て	目指すべきまちの姿
輝きつながる視点	基本方針1 町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。	集い、つながる交流機能の充実	町民のつながる笑顔のまち
つどい支え合う関係づくりの視点			
食料供給等の災害対応の視点	基本方針2 災害時の対応力強化に資する体制の整備を町民活動と共に図ります。	災害時の食料供給、備蓄機能の整備	災害時も安心安全に暮らせるまち
交流・防災の視点			
多機能化・多世代交流の視点	基本方針3 子どもから高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します。	子育て、高齢者を支える環境整備	子どもからお年寄りみんなが元気なまち
商業の活性化の視点	基本方針4 地域のものを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します。	地域を支える商業空間の充実	地域の食材が食卓にあるまち
新たな雇用の創出の視点	基本方針5 別海で暮らし続けるための雇用環境の改善を図ります。	雇用環境の改善と場の創造	いつまでも暮らせる豊かなまち
ホール機能充実の視点	基本方針6 町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。	利便性向上を図る交流拠点の充実	ふれあいが育まれる潤いのまち
市街地のコンパクト化の視点	基本方針7 市街地のコンパクト化を目指した、効率化と複合化の公共機能整備を進めます。	支え合う関係をつくる複合機能の整備	必要なものが身近にある便利なまち